

支 部 通 信

日本山岳会山梨支部 第3期第11号
令和3年(2021年)12月20日

第62回木暮祭を開催

10月17日、前夜からの雨が上がり、錦繡をまとった金峰山が見下ろす北杜市須玉町の金山平で62回目の木暮祭が開かれた。主催は木暮碑委員会を構成する増富ラジウム温泉郷観光協会と日本山岳会山梨支部、山梨県山岳連盟。増富ラジウム温泉郷観光協会が骨を折ってくださる恒例の「ほうとうを楽しむ会」は、昨年に続いて実施見送りとなった。

金山平の高台にある碑前には、今回も県内各地から大勢が集まった。観光協会の小森良直事務局長が開会の辞を述べた後、県山岳連盟と本支部代表があいさつした。小宮山稔岳連会長は、「甲武信ユネスコエコパークの礎を築いた木暮理太郎の奥秩父への功績を長く語り継ぎたい」と述べた。北原孝浩支部長は、「日本山岳会は4年後に創立120周年を迎えるが、記念事業として実施する全国の山岳古道調査の対象に、金峰山へ向かう御岳道が選ばれた。歴史ある古道を後世に伝えたい」とした。来賓として北杜市市長・日本山岳会副会長が初めて参加された。上村英司市長は「日本山岳会の役員から木暮理太郎の著書をお借りして読んだ。奥秩父、とりわけ金峰山は北杜市・日本の宝だとの認識を深くした。過疎化が進む増富だが、山・清流・温泉という資源を最大限活かしていきたい」と抱負を語った。坂井広志副会長は、日本山岳会が展開する事業を紹介した後、「ウエストーン祭・高頭祭・小島烏水祭・榎有恒祭などが、日本山岳会の地元支部主催によって行われている。山梨支部が主催しているこの木暮祭は無論、運営協力している田部祭・深田祭なども価値あるイベントである。さらなる発展を願う」と語った。



献花・献杯の後、筆者が「木暮理太郎と奥秩父」と題するミニ講演を行った。来年こそは「ほうとうを楽しむ会」が復活してほしいとの思いを語り合いながら、落ち葉の散り敷く道を下った。(矢崎茂男)

支部山行報告

【高峯山】 ■令和3年7月11日(日) ■地図：2万5千図「車坂峠」

■行程：高峰高原ビジターセンター(車坂峠)―粒ヶ平―高峯山―高峰温泉―池の平湿原

■参加者：池田新二郎、大澤純二、大澤さな枝、渡辺峯雄、渡辺秀子、萩野有基子、末木佐登子、遠山若枝、磯野澄也、臼田昌美

花の百名山・高峯山は、浅間山系1000種高山植物分布の中にある。7月中旬の日曜日、小諸市の車坂峠駐車場から歩き始めた。高峯神社の鳥居の下から初夏の花・紫のゲンバイヅル(中部限定)、タカネアオヤギソウやクガイソウの重めの蕾、可愛いピンクのシャジクソウ(車軸草)の名前通りの形を教わり、粒ヶ平でひと休み。ニッコウキスゲは開花直前。カラマツソウ、ウスユキソウ、ツマトリソウ、ヤマオダマキ、日本スズランの葉、満開のシャクナゲ林を抜けて、高峯山山頂へ到着。神社に拝礼後、青空の北アルプスと360度展望を堪能しながら昼食をいただいた。岩場にはヒメシャジンの葉もあった。

高峰温泉へのシャクナゲ樹林は、サラサドウダンツツジの赤花や、ハリブキの花、駐車場にはクリンソウ(九輪草)も咲いていた。男性方に運転をお願いして、池の平駐車場へ移動。車に乗るや大粒の雨が降り驚いた。

雨が降り止む間に、湿原木道を三方ヶ峰へ向かう。ゲンバイヅル群生を夢中で撮影。テガタチドリ、ハクサンチドリなどもカメラに収めた。三方ヶ峰のコマクサ群落では、白花ピンクや終わりがけの深紅などいろいろなコマクサに出会えた。降りだした雨の中、鏡池を眺めつつ、また、のんびりと湿原木道を戻った。紹介出来ない程の数々の花の名前、開花直前の葉や蕾についての遠山さんの詳しい解説に一同頷き、納得した。ユニークなマルバ



ブキダケの蕾の形、花の名前に納得のシャジクソウ。夢中で写真を撮った。

笑い声が絶えず、賑やかでのんびりした花いっぱいの初夏の高峯山。この楽しい山行を企画してくださった池田さんに、感謝でいっぱいの1日だった。(臼田昌美)

【五里山】 ■山行日：令和3年10月17日（日） ■地図：2万5千図「瑞牆山」

■行程：金山山荘キャンプ場－登山口－思索峠－西峰－薙山－登山口－キャンプ場

■参加者：古屋寿隆、磯野澄也、矢崎茂男、滑志田隆、滑志田ひとみ、大原光彦、小川基子、後藤美佳

10月第3日曜日の木暮祭に合わせて、数年来実施している五里山登山。すっかり定番になったが、古屋リーダーの計らいで毎回少しずつ味付けが加えられている。今回はこの山を構成する五つのピークの内、南峰（1722m）登頂を目指すことになった。

集合場所の金山山荘キャンプ場は、朝から冷雨に打たれていた。例年に比べて紅葉が遅く、シラカバやカエデは緑の衣を羽織ったまま。樹間に見えるはずの金峰山は霧の向こうである。

8時15分に出発。金山沢を渡って林道を進み廃棄林道入口から踏み跡をたどる。下見の際、リーダーが巻いたピンクのテープが森の奥に続いている。堰堤を二つ越えた先の沢筋が尾根への登路である。この上の鞍部を私達は「思索峠」と呼んでいるが、ならばこの沢は「思索沢」、この地点は「思索沢出合」と呼ぶのがふさわしいと、どなたかが提案。これらの名称が徐々に定着していくのが楽しみである。

薄い踏み跡をゆっくり登る。リーダーが持参の道具で足場を作っていく。登り上げた峠は大小の露岩がベンチのように並ぶ心地よい休憩地である。あいにくの雨天ではあるが、雨に洗われたミズナラの森を眺めていると、自然と深い思索に誘われる。ここから明瞭な尾根道になり、1730メートルの西峰に立ったのは10時過ぎ。山頂は狭いため二手に分かれて記念写真を撮った。雨は上がる気配がなく、南峰へのルートは危険箇所もあるため、ここから下山とした。復路には昨年トレースした北西尾根を下った。薙山手前の痩せ尾根で参加者1名が足を滑らせるアクシデントが起きた。幸い大きな怪我には至らなかったが、通り慣れた山であっても油断は大敵。私たちは額の脂汗を拭いながら大いに気を引き締めた。

キャンプ場に1時過ぎに帰着。雨が上がりシラカバ林の上に金峰山が聳えていた。いつもは柔和な金峰山が、やや険しい表情で見下ろしているように思われた。(矢崎茂男)

【醍醐山 家族登山】 ■山行日：令和三年10月24日（日） ■地図：2万5千図「切石」

■行程：甲斐常葉駅－鳩打峠－頂上－展望台－頂上－大子－上之平－下部温泉駅

■参加者：鶴田 浩、鶴田陽子、磯野賢司、磯野麻衣、磯野心希、五月女雅樹、五月女美咲、五月女日南、五月女ふみ、斉藤大資、斉藤琉禾、斉藤二湖、北原孝浩、磯野澄也、古屋寿隆、渡辺峯雄、萩野有基子、遠山若枝、末木佐登子、平松清子、相川 修、渡辺秀子、市川俊幸、赤池茂仁

山梨県の「2021年度やまなしで過ごす山の日」イベントの一環として、山梨支部主催の醍醐山家族登山を10月24日（日）に開催した。8月に予定された県主催の大菩薩峠トレッキングは9月に日時を変更したものの、新型コロナウイルスの影響により中止された。山梨支部も慎重に検討を重ねた上で、十分な感染防止策を前提に実行した。

秋の爽やかな晴天下、4組12名に山梨支部員等12名のサポート含め計24名にて実施した。醍醐山はかつて、地方のどこにでもある荒放題の山であった。9年前に東京スカイツリーが開業。スカイツリーの高さと同じ標高634m（ムサシ）であることにあやかり、この忘れ去られた山が地



元関係者及び山仲間との協力を得て復権した。日本山岳会会員の協力もいただき6kmの登山道が整備された。ブログなど通じ、今や全国的に知られる山になった。

コースは、JR身延線甲斐常葉駅から鳩打峠を経て頂上、下山路は大子集落・上之平を経て下部温泉駅までの縦走である。甲斐常葉駅で開会式・準備体操後、2班に分かれ登る。標高差400m程度の山は、年齢差関係なく家族登山にはもってこいの山である。随所の展望台から景観を楽しみ、木々に付けられた名札に樹木の名前を学びながら里山の登山道に行く。コロナ禍による2年間の制約の日々が平常に戻りつつある。家族の会話が弾み満面の笑みがこぼれる。頂上までは2.7km。ゆっくりペース、2時間半で頂上に着く。

ここから展望台へ往復、篠井山・十枚山・七面山等静岡県境までの視界が広がる。支部員によ

るカップ麺サービスがあり頂上にて昼食。この後、参加家族ごと感想を述べていただき懇親を深める。醍醐山テーマソング「希望の醍醐山」を高らかに斉唱し下山へ向かう。

下山路はモミジ回廊をたどる。未だ青々とした広葉樹の森で森林浴を楽しむ。30分下った中腹に消滅した大子集落がある。ここにはかつての日本の風景が残る。更に30分で上之平、15分で終点湯之奥金山博物館。閉会式にて、家族・スタッフ共に、「良かった、楽しかった」の感嘆の声が上がった。満足感が全身を覆う山の一日の終わりだった。(磯野澄也)

【雁坂峠】 ■山行日：令和3年10月31日（日） ■地図：2万5千図「雁坂峠」

■行程：雁坂トンネル駐車場－沓切沢橋－井戸沢－雁坂峠－井戸沢－沓切沢橋－駐車場

■参加者：北原孝浩、小宮山千彰、上田謙治、池田新二郎、小嶋数文、荏原由美子

前日までの秋晴れとはうって変わっての曇天。雨予報も出ている中、悩んだが決行することとした。トンネル手前駐車場を発ってしばらく林道を歩き、沓切沢橋から登山道に入る。紅葉は見頃を迎え、写真を撮ったりしながら久渡沢沿いを快調なペースで登っていく。途中雨が落ちてきたのでカッパを着るも、高度が上がるにつれ次第に空が明るくなってきた。

笹原の斜面が広がる雁坂峠に到着。展望は雲の中である。そこでK氏が何やら呪文らしきものを唱えると、さっと雲が切れ、雲の合間から周りの山々や富士山も見えだす。思わぬ絶景に「わーすごい！」と口々に叫びながら夢中でシャッターを切る。(呪文の効果かは定かではない)

山頂には秩父往還の歴史と近隣の植生の立看板。古びた石碑には1977年安全登山の記。1998年に雁坂トンネルが開通するまで「開かずの国道」と言われ、峠を越えるこのコースが国道140号に指定されていたという。針ノ木峠、三伏峠、とともに日本三大峠の一つであり、甲斐国の古道「甲斐九筋」の一つでもある。また『日本書紀景行記』に「日本武尊が通った」と記載されているなど、由緒ある峠である。

行商人達も日本武尊一行も、きっとここで富士山を眺めながら食事をとったに違いない。私たちも豚汁と焼き肉という豪華版ランチを食べながら物思いにふける。ガスも上がってきたので雁坂嶺へのピストンは中止にして、ここでのんびりと至福の時間を過ごす。

満腹でやや重いお腹を抱えながら山頂を後にする。中腹にさしかかった頃から陽が射しはじめ、夕日に染まっていく紅葉と渓谷美を堪能しながら高度を下げていく。木々の合間をぬいながら、いにしへの秩父往還の行商人達に思いをはせ、ふとタイムスリップしたような錯覚に陥るのがこの峠の魅力だと思う。唯一難所の4カ所の沢の徒渉も、水量が少なく難なく渡ることができた。

メンバーとの会話が弾み、山は人で決まるよと以前言われたことを実感した楽しい山行となった。メンバー及び小宮山SLに感謝したい。(荏原由美子)



【芦川釈迦ヶ岳】 ■山行日：令和3年11月6日（土） ■地図：二万五千図「市川大門」「精進」

■行程：登山口－ヌケド峠－トリノ山－三方分山－トリノ山－ヌケド峠－芦川釈迦ヶ岳－釈迦屋敷跡－芦川釈迦ヶ岳－折八林道登山道－登山口

■参加者：渡辺峯雄、渡辺秀子、大澤純二、大澤さな枝、池田新二郎

お釈迦様にちなんで「釈迦ヶ岳」と命名された山は、全国にいくつもあるとのことだが、今回向かうのは、甲斐百山の芦川釈迦ヶ岳だ。山梨百名山の釈迦ヶ岳がすぐ近くにあるが、JAC山梨支部発行の『甲斐百山』によると、そちらは本来嵯峨ヶ岳であるという。なぜこうなったか定かではないが、とにかく、こちらが本命釈迦ヶ岳という感じはする。気温も急激に下がり、紅葉の色づきもややあせたかと思われる11月初旬に一行5名がこの静かな山に入った。

登山口からは、黄金色に染まった山並みが見える。落ち葉でふかふかの登山道を登ると、すぐにヌケド峠に到達。まずは、山梨百名山の三方分山に向かう。なだらかな尾根道に行く。ふと下を見ると、季節外れのトリカブトの花が、二輪咲いていた。登山道沿いにいくつものトリカブトの群落があり、ほとんどは咲き終わって、種を茎の先に着けている。紅葉は黄色系のものが多いが、ときに紅く染まった楓があり、景色を華やかにしていた。

三方分山に着いて、しばしの休憩をとる。ここからは秀麗な富士山の姿が見られるはずだが、雲に隠れてよく見えない。だが雲は動き続け、気が付くと富士山、大室山、精進湖が縦に並んで見えたのは幸運だった。道を引き返して、芦川釈迦ヶ岳へ。何の変哲もない山頂を経て、釈迦屋敷へ向かう。ここには、平安時代京都から運ばれたお釈迦様の像が祭られていたという。現在、釈迦像は麓の永泰寺に安置されている。

山頂に戻って昼食。記念撮影後、ゆっくりと下山した。途中永泰寺にも寄り、歴史に思いをはせつつ秋の山行を終了した。(池田新二郎)

トピックス

第7回やまなし登山基礎講座 コロナ禍により中止

平成26年に国民の祝日「山の日」が制定された。山梨支部では、山の日制定記念事業として翌27年に「やまなし登山基礎講座」を開講し、毎年継続してきた。今年度も9月7日から10月5日まで、第7回となる講座開催の準備を進めてきたが、8月26日、臨時理事会を開催し、新型コロナ禍対応を理由に中止を決めた。この間の経緯を以下に記す。

令和2年春、新型コロナウイルス感染症が急拡大し、4月7日、政府よりいわゆる「緊急事態宣言」が7都府県に出され、登山など様々な活動自粛が要請された。16日には山梨県にも拡大適用されることになった。緊急事態は5月25日には全面解除されたが、日本山岳会を含む山岳4団体が、感染拡大防止のための山岳スポーツ活動のガイドラインを提示した。

新型コロナが小康状態にある中、第6回やまなし登山基礎講座を開講した。9月8日から11月17日にかけて全11回の講座を敢行した。受講生は15名。三密を避けるよう山梨学院大学のやや広い教室で実施し無事終了した。

第6回の講座の終了と同時に、第7回の講座の準備を始めた。これまでは、山梨学院生涯学習センターの全面的なバックアップのもとに実施してきたが、今年は会場の確保、チラシ作成、募集事務、講座運営など、すべての実務と経費を山梨支部単独で負担して開催することになった。このため日程を圧縮して9月7日から10月5日まで。内容は、机上講義5回（火曜日夜、ぴゅあ総合）、実践登山2回（土曜日）の全7回、募集定員25名とした。支部員の多くの皆さんに協力をいただきながら、受講生募集活動を行っていたさなか、新型コロナ感染症「まん延防止等重点措置」が、8月20日から9月12日の間、山梨県に適用されることになった。

9月7日に開講予定であったが、重点措置適用の下では講座の会場が確保できない。また重点措置延長の可能性など今後の状況が見通せない。このような事情により、第7回基礎講座を中止することにした。13名の受講申込み者には直ちに連絡し、また協力いただいた支部員全員にはメールとハガキでお知らせした。来年度の第8回基礎講座を開催に向けて、今後検討を進めていく。(大澤純二)

支部山行・会員山行におけるコロナ対策の再確認

沈静化したコロナ感染だが、変異株ウィルスにより第6波の流行が懸念されている。先の理事会で、支部山行・会員山行におけるコロナ対応について下記のように確認した。参加の際の順守をお願いする。

- ①行政からの緊急事態宣言・まん延防止等重点措置などが発令された場合、山梨支部の支部山行・会員山行は実施しない。それ以外の場合も、山行リーダーの判断で中止することもある。
- ②山行前にリーダーは、参加者に対しコロナ感染予防のための注意喚起を行う。
- ③山行の参加は、2回目のコロナワクチン接種済を前提とする。未接種の場合は、PCR検査・簡易検査キット等により、陰性であることを確認する。
- ④参加者は、家を出発する前に体温を測り、発熱・体調不良のある場合は参加を取り止める。リーダーは出発前に参加者の自己申告をもって確認をする。体温測定器がある場合は測定する。
- ⑤登山中のマスク着用は自己判断とする。ソーシャルディスタンスが保てない場面では必ず着用する。
- ⑥車座になったの食事、飲食物のやり取りは禁止する。行動中の大声での会話は控える。(渡辺峯雄)

理事会報告

- | | | |
|--------|-------|--|
| 7月14日 | 理事会 | 第7回やまなし登山基礎講座・受講生募集案、支部山行ほか |
| 8月26日 | 臨時理事会 | 新型コロナ特別措置法により登山基礎講座中止 |
| 10月13日 | 理事会 | 10/17第62回木暮祭、山岳古道調査、支部通信発行 |
| 11月10日 | 理事会 | 支部山行・会員山行・個人山行の募集方法や下見山行、登山届提出等 |
| 12月8日 | 理事会 | 支部山行におけるコロナ対策の周知徹底、支部年会費滞納の取扱い、来年度事業計画・予算・役員人事案について (大澤純二) |

編集 矢崎茂男 (広報担当)

住所：408-0114 山梨県北杜市須玉町藤田502

TEL：090-7734-2788 Eメール：yazaki-s@taupe.plala.or.jp